

体育科における教授過程の分析

(一授業の観察記録から)

江橋 慎 四 郎

(一) 緒 言

教育方法の主観性を克服し、具体的な教授過程に即して教育方法の諸原則を明にしようとする試みが、各教科の領域で行われている。体育科においても、二、三の試みがなされており、丹下は体育科における授業観察の際の分類項目を示している。^(文献1,2)

然しながら、体育科は、他の教科における教授過程研究のように教室内における教師と生徒の主として、「言葉」や「教科書」などを通じての教授過程と異り、授業は予想外に広く展開される運動場において行われることが多く、教授も「言葉」を通じて行われるとともに、身体運動、行動を通じて行われることが多いので、教授過程の観察とその記録には、他教科とは異った体育科独自の困難さが予想されたのである。このような困難さはあるにしても、身体活動を主要な教授手段とする体育科の具体的な教授過程の克明な観察と、その再現こそ、教育方法における他教科との共通性、体育科としての独自性を明にする上で不可欠のものと考えたのである。

本研究では、他教科で行われた教授過程研究の方法や諸記録を参考にするとともに、体育科では、どのようにすれば、最も具体的に、明確に把握、再現できるかの方法的吟味を行いながら、授業を観察し、その再現に努めたのである。

本稿は、このような、体育科における教授過程研究の一試論であり、さらに、より客観的な記録法を究明し、多くの記録の蒐集をはかり、それに基づいて、体育方法の諸原則を明にする一つの手がかりとしたいと考えている。

さて、体育科の教授過程をありのままに再現するといっても、限られた手段、人員、経費をもってしてはある限界があり、また、何を中心に記録するかを明にされなくては、多様な教授過程を克明に再現することは決して容易なことではない。そのため調査の原則をはじめに、種々検討した。

例えば、オコーンは

1, ポーランドの最もすぐれた教師たちによって行われた授業の記録を集めること。

2, 教授やその方法的基礎を分析したり、その結果を評価するため、教授の前後につくられた教師の覚書を集録すること。

3, テーマを選択するための偶然性をさけるため、授業のテーマを教師と相談してきめること。

4, 客観的で正確な像をあたえてくれるような材料を集める工夫をした。」と述べている。^(文献4)

最もすぐれた授業記録を蒐集することは、より価値のあることは明白なことであるが、前述のように、体育科の場合には方法的吟味もまだ不十分であり、従って、予備的な段階として、むしろ、実際に行われている体育科の授業そのものの記録を蒐集すること、従って、あるテーマを教師に依頼するというよりも、現実、そこ、この学校で行われている一般的な授業の、ありのままの記録をまずとることによって、そこから方法の原則なり、今後の研究の見とおしをたてゆくという方法をとったのである。

次に、何を主として観察するかという問題であるが、運動の量とか、運動の形式そのものには重点をおかず、やはり、教師の発言と行動、子どもの発言と行動、教師と子どもの相互交渉過程、子ども同志の相互交渉過程を忠実に観察し、記録するということに重点をおいた。このことは、体育科は身体活動を主要な手段とする教育であるから、もっと身体活動を具体的に記録すべきであるという考え方もあるが、その場合には、当然記録をとる意図も異り、また、異った方法(例えば映画にとるなど)もとられねばならず、従って、本研究では、身体活動を手段とする体育科における、教師と子ども、子ども相互の教育的交渉過程を「言葉」を中心に記録し、そこから、体育科において、からだや運動に関する知識、技能、態度がどのように形成されてゆくのかの諸法則を少しでも明にしようと思図したのである。即ち、体育科においても、一つの教授手段として「言葉」の果す役割は、決してみおとすことはできないと著者は考えている

からにほかならない。

このように、授業記録は、研究の対象や課題によって、重点をおいて記録される部面は異ってくるが、ザンコフが「授業の他の部分を見捨てることは正しくないであろう。授業は全一的なものであるから正確な資料を手に入れておいて、そのうちから、全体の授業のなかでわれわれの関心をひく部分がどういう位置を占めるかを見わかるようにすることが大切である。」^(文献5)とっておくように、ねらいは前述のような点におきつゝも、他の面を全く無視するというのではなく、「言葉」や「行動」を補うための諸場面もできるだけ忠実に再現するという点は考慮した。

(二) 授業の計画と記録

本稿で分析の素材として取り上げる授業記録は、紙数の関係で、最近実施したものの一つである。この授業記録は、東京都荒川区のM小学校第5学年F学級

期日 昭和35年10月19日

教材 走り高とび、背支持腕立前転(2時間目)の記録である。

実際に行った記録のとり方について述べる前に、この授業にたいする教師の指導計画、および教授案を参考までに示しておく。

このクラスでは、走り高とび、背支持腕立前転の学習にそれぞれ、2時間、3時間を配当し、学習のねらいとしては、改訂指導要領における目標の分類に応じて、技能とルール、社会的態度、健康安全の三項目に分け、それぞれの教材につき、次のように示している。

教材	技能とルール	社会的態度	健康安全
走り高とび	1. 助走や踏切りを考えてとぶことができる。 2. 正しい計測ができるようにする。	1. グループごとに協力して練習する態度を育てる。 2. 計測・記録などの係を代りあう態度を養う。	1. 砂場をやわらかにしたり、走路を整備して、安全に行う。 2. 準備運動、整理運動をする。 3. 着地を安全に足から落ちないようにする
背支持腕立	1. 倒立の姿勢からロールマットに背を託して前転する。 2. 腕の支持のしかた、背	1. グループでなおしあったり、補助しあったりする。 2. マットを自分たちのか	1. 順序よく練習して、安全感をもつようにする。 2. 自分の能力を知って運動することができる。

て前転	のあて方の要領がよく理解できる。 3. 歩きまたは軽く助走して背支持前転ができる。	らだに合う程度に高さや柔らかさを調節できる。
-----	--	------------------------

このような目標項目のわけかた、内容については検討する余地はあるが、後の分析の際の一つの観点にもなり得るであろう。

さらに、二つの教材指導のための全体計画もあるが、本稿の授業記録はその第2時間目のものであるので、全体の教材にたいする時間配当表(第1表)および、第2時間目までの指導計画(第2表)を次に引用しておく。

時限分	1	2	3	4	5
10'	走	り	高	と	び
20'					
30'	背	支	(本時)	持	腕立
40'					

表1 時間配当計画

時限	教材	字 習 内 容
1	走り高とび	・助走・踏切りの要領を指導し、練習させる。 ・まじめに研究し、練習する態度を育てる。
	背支持腕立前転	・安全感をもってロール、マット上で前転する。 ・練習はグループで自主的にできるようにする。
2	走り高とび	・助走踏切りの要領を工夫させながら練習させる。 ・グループ毎に協力して練習する態度を育てる。
	背支持腕立前転	・ロール、マットのそばで補助倒立し、補助によって前転し、背支持前転の調子を知る。 ・前の人があすんで安全であることを確認してから行う。
		以下同様な計画(略)

表2 全体の計画

こゝには、5時間にわたって、走り高とび、背支持腕立前転の二教材の学習をどう発展させてゆくかのおよ

その教師の計画が示されている。もちろん、この教師の計画そのもの、検討も必要であるが、ここでは、教師がたてた計画を尊重し、また、第2時の授業の展開過程と

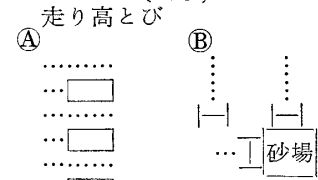
比較するための資料として、第2時までの計画を引用しておくにとどめる。なお、以上のような全体計画に基いて、本時の指導案を次のように示している。(第3表)

第3表 本時の指導案

- (1) 教材 走り高とび ($\frac{2}{4}$) 背支持腕立て前転 ($\frac{2}{5}$)
 (2) 目標

教材	技能とルール	社会的態度	健康・安全
走り高とび	・助走、踏切りの要領を工夫して練習する	・グループごとに協力して練習する態度を養う	・着地を安全にし砂場を柔らかにする
背支持腕立て前転	・補助によつて前転し背支持前転の調子を知る	・ともだちの障害を知り協力してなおしあう	・運動する人の妨害にならぬようにする

(3) 指導の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	用具	時間
はじめ	1. かけ足をする 2. 準備運動をする(グループ別) ・前時までの徒手体操をグループで選定して実施する	・運助のねらいを確認させ正確に実施させる		7
なか	3. 本時の学習について話し合う ・助走や踏切りの要領を工夫して練習する ・倒立姿勢からブリッジの要領で前転する 4. 練習をする(グループ別) ・Aグループ(男子) 背支持腕立て前転 ・Bグループ(女子) 走り高とび  ・Aグループ, Bグループ交替する	・本時の目標を確認させる ・グループの問題や練習計画をもたせるようにする ・くびは重心が真上をすぎてからおこす ・うでや腰をまげたり背を円くする悪いせがつかないようにする ・グループ内の助けあいを活潑にする ・助走は5.6歩ぐらいからはずみをつけて走るようにする ・とび方は自由に各人のとびやすい方法で行なわせる	マット 6 旗竿 6 旗立台 4 洗濯バサミ 4 高とびポール 1 バー 1	16
まとめ	5. 整理運動をする(グループ別) 6. 本時の学習の反省をする(一斉)	・自己評価, 相互評価により本時のねらいを中心に話し合う		5

次に授業観察のための観察員と役割の分担であるが、この授業の観察には、次の人員で行った。

- 1 全体観察者……著者、授業進行中の重要な事実を摘記する。
- 2 計時員……時間の経過を観察員に知らせるため、計時板をもち時間の経過を1分毎に観察員に示す。
- 3 観察員(6名)……(1) テープ・レコーダーをもち、教師の発言をとるものと、それを補助するために発言、行動を記録するもの1名
(2) 特に教師の発言に対する子どもの発言を記録するもの1名
(3) 特に対象としたグループ(本時の場合には9名)内の子どもの発言、行動を記録するもの3名
- 4 写真係(1名)……主要な場面の転換毎に撮影する。(なお、テープ・レコーダーをさらに一台準備し、特に

グループの子どもの発言を中心に記録する予定であったが、この時には、残念ながら授業開始に間にあわず、途中から授業全体の経過をテープに録音(実況放送の要領による)するにとどまった。著者等が保健の教室授業の場合の授業記録をとった経験からしても、運動場の授業の場合には、テープ・レコーダーは最低2台は必要である。また、特定のグループのみでなく、他のグループの記録をも同時にとるべきであるが、観察員の数テープ・レコーダーの故障などによって1グループのみにとどめるを得なかった。

以上10名の観察員によって得られた記録も、教師の発言、教師の発言にたいする子どもの発言、特にえらんだグループの発言毎にまとめ、それらを相互に照合しながら、観察者全員の協力によって、次のような授業記録を作成した。

授 業 記 録

場 所 東京都荒川区M小学校第5学年5組

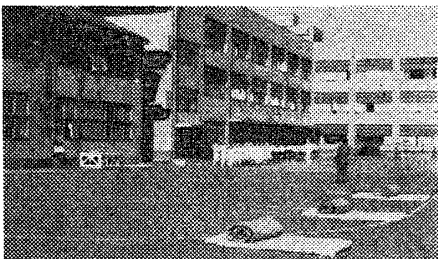
期 日 昭和35年10月9日

教 材 走り高とび 背支持腕立前転

(第2時間目)

略記号

A 全体	B 男子	PL 高井(リーダー)
G グループ	g 女子	P1 桜井
GM 男子グループ		P2 安藤
GF 女子グループ		P3 宮沢
GL グループのリーダー		P4 井出
I 個人		P5 須藤
T 教師		P6 高橋
		P7 山田
		P8 金田

教 師	子 ど も	グ ル ー プ
分		
ヤスメ →A		
じゃ今日は次の計画によってはじめます		
いちばんさきにかけあし →A		
こちらについてまわりましょう →A		
ヨーイはじめ →A		
まがって →先頭		
もう一度 →A		
駈 2		
そこまで →A		
足		
ではグループにわかれて徒手体操 →A		
きめてありますね →A		
それをかるくやってください →A		
そのくみ, ちよっとさがって		
[グループの場所を指示する] →G	場所の指示	
はい, その辺 →G		
はい, そのグループは前にね →G		
そのグループまん中 →G		(全員でかけあし)
さげるところあげるところをしっかりとくべつしましょう →GF		PL: 3回やる
[グループをめぐりながら]		これをやる
あげるところはあげる, ひらくところは	徒手体操の仕方についての指示	左, 一, 二, 三
しっかりひらく →GF		こっちから
すこしひらいたらどうかな →GF		左手でやるの
こっちからあげた方がいいな →GM	B: 左ってこっちだよ	次ね
しっかりつけて左からあげなさい →GM		もうおわり

もうすこし、ひらいていいんじゃない
→GM

4 はやくすんだところは今日の計画につ
いて相談しておきなさい →A
[中央にたって]

集 では、あのすんだグループはあつまって
くださいね →A
じゃー[あつまる場所を指示] →G
合 ここ →G

6

では、あの、みんなもグループの練習の
計画によって、すこしお話ししていたよ
うですが、いっしょにね、今日の勉強の
目標になるもの →A

今日は前の時間にやった、男の子はね、
このマットからさきにやって、背支持の
腕立前まわりについて、女子の方は高跳
の方からやります。 →A
で、途中で交代しますから、いいですね
→A

では、あの今日はね背支持腕立前転の方
は、とにかるくまわる →A
まわって、どうしたら廻られるんかとい
う要領かな、そういうのを、こうわかっ
てもらいます。 →A

で、高跳の方は、ふみきりの巾をどんな
にしたら高くとびあがれるか →A
はしってゆく距離がね、助走がね、距離
がね、どのくらいが一番とびやすいか、
どうか →A

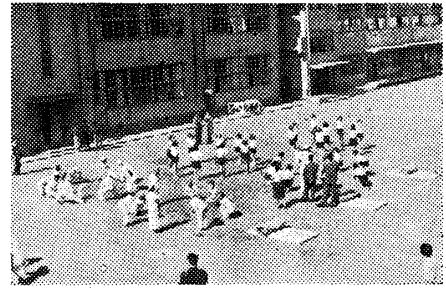
そういうことを考えて、今日の勉強をは
じめてもらいます→Aいいですね →A

では、あの松村君[指名] →I
背支持の腕立前転ね。どういうことに注
意したらいいんだった? →I

字習の仕方について
の指示

B: あのーちゃんと
倒立してからま
わる。

B: まげないでしっ
かり手をのば
す。



(グループ毎で徒手体操)

PL: 深呼吸

休み

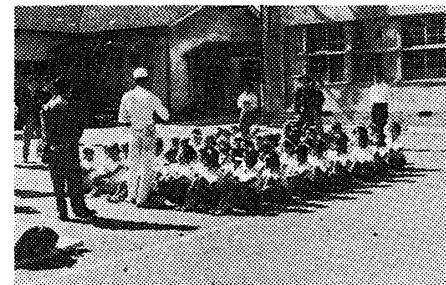
[リーダー出席をとる] P1 P2

P3..P8

:ハイ

PL: 止れ[もう一度中央に集合する]

坐って



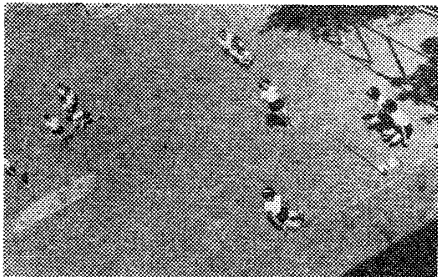
(本時の学習について話合ひ)

全体に本時の教材の提示

前の時間にも、そういうお話ができましたね →A
 背支持の腕立前転の場合は、しっかり倒立するような気持でやらないと、どうなりますか →A
 しっかり、こうまわれる? →A
 まわれる? →A
 まわれない →A
 まわれないね →A
 腕がよわかったらどうなるの →A
 つぶれてしまう。 →A
 そういう事も今日は注意しましょう →A
 それから出来ない人はお互に助けあって練習をはじめてゆく →A
 いいね →A
 あとで今日のね話し合いがありますので、どうやったらうまくできたか、どんなふうに練習したら自分は上手にできたか、ということが反省できるように、いろいろ工夫します。 →A

じゃ、そのグループはむこう [グループに場所を指示] →G
 このグループはむこう →G
 このグループは →G
 じゃあ、班長さん、つれてって →G

じゃあ 高跳の練習、ここからやりましょう。 →GF
 (高跳女子グループのところ) →GF
 そうですね、ここでいれた方がいいですね →I
 頭[前転の男子グループのところを指示] →I
 頭—それでいいの →I
 そしてたおれる時に頭を入れた方がいいんじゃないかな →I



多数：まわれない
 少数：倒れる

P：まわれない。

A：はい

P：つぶれてしまう

PL：かけ足、用意、進め、
 大きい順から
 坐れ

倒立だい

2列になって

やってよーし[P1倒立]

P1：おっこっちゃう

P4(→P2)：逆立だよ

P7：三人でやろう[P6倒立]

P3(→P2)：早くしろよ

P4・P7：いいよ、いいよ

PL：よーし、いいよ

P5(→P4)：もっとあがれよ

P4, P7(→P6)：いいか、いいか

PL：もっと足をのばして、ピンとやって、よーし、

P4, P7：いいか、いいぞ

GF

GM1

→ I
松村君、頭ははじめからこれでいいの？
うん おこした方がいいね → GM

たつときおこしておいて、まわるとき入
れた方がいいね → GM

はい、静かにたおしてみましよう → GM

頭はどう → GM

こうまっすぐでいいの → GM

三角形に → G

ありゃりゃこれはどう？ → G

腕は？ → G

じゃここからマットつかって
[マットとそのならび方を指示する]
→ GM

じゃ、ここも → GM

こっちの方がいいね → GM

まわっていきなさい → GM

14

たっておいて[男子グループの子どもに]
→ I

そうそう → I

にぎってるとおぶないんじゃない [女子
グループのバーをにぎっている子に]
→ I

じゃあ、かるくおさえてないと、あぶな
いよ → I

とおいんじゃないかな [助走の距離につ
いて] → GF

すこしもっと、近くでいいよ → GF

なおしてあげますか → GF

じゃあ、この辺からやってごらん → GF

むこうとこことどっちがやりいいか → GF

長谷川さんねながいとき、走る距離をな
がくしたときと、みじかくしたときと、
どっちがとびいいか、ためしてごらん
→ I

近いところから走ってみて → G

B: 頭もってこっち
[松村ちきしょう
(できなくて)

B: 三角にする

B: ちがう、まがっ
ている

g: 風がきておっこ
っちゃう

GF₂

g: もうちょっと前
へ 16

g: もっとこっちに
きて

PL: 頭を上にする

P 4 (→ P 5): 早く

PL: ビンとやって、よーし、いいか

P 2 (→ P 8): だめだよあれじゃ

P 1: こんなんじゃだめだ

P 8 (→ P 2): 誰々位やれよ

PL: 頭をぐーっとやって

P 7 (→ P 4): もう一回

P 3 (→ P 2): まわすの?

P 4: すわるんだよ

PL: もう少し

P 2: もういいよ

PL (→ P 2): 前へならえ

P 1: 並んで井出君 (= P 4)

PL: 大きい順に [背支持前転に移る]

PL: 二人やるんだろう

二人でやる、両方からやる

いいんだよ

ちょっと待って、山田君のどうだっ

たと思う

P 2, P 3: 手が曲ってた

PL: そこなんでしたの

P 1: 高橋君 (= P 6) やれよ、おわった人
やれよ

PL: 倒立やる時だけ

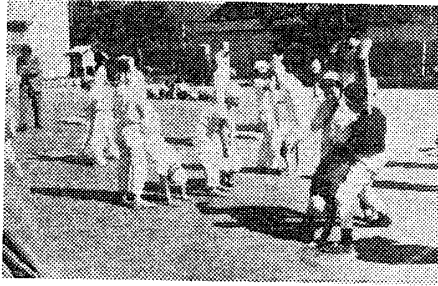
: 須藤君 (= P 5) のやり方どうだっ
た?

P 3: ビンとしすぎた、足がピンとなっ
ていた。

頭が曲っている

P 6: 足曲げる、曲がる時、足あんまりあ
げるなよ、

出来ない人だけ



18

どうしたら、いいんだろう [男子グループのところへきて] →G B
 右手に力がなかったわけね →I
 なおしあってやってきなさい →G G
 もう一度やってごらん →I
 手に力がないから途中でくずれてしま
 うね →I
 まだこれからよ、まだまだ、まだよ背中
 がついたころ[前転の補助をする]→I B
 内田君、ハイチョット来てごらん →I
 もう一度やってごらん →I
 はい、かしてごらん →I
 内田君、頭どうこれでいい? →I
 手のつき方どうだろう →G
 そう、ちょっとせませすぎるね →G
 上田君、もつとひろげてごらん →I
 そうすこしうしろじゃないかな手は →I
 その辺がいいんじゃない? →I
 頭は? →I

そう、それで出てしまうとどうなる →G
 おこしてね →G
 まわるときからだがおくれる →G
 その方がいいんじゃない? →G
 ためしてごらん、頭をこうまっすぐはじ
 めに →G
 倒立の時には頭をまっすぐ立てておい
 て、まわるときにはまるく →G

B : 右手ががくつと
 なっちゃった。

G : はい

GM₃

B : まわるとき、手
 がこうなっちゃう

B : くっついている

B : 手横だよ

B : せませすぎる

B : 三角にする

GM²

PL : もっと向こうへ

PL, P1 : よけいやりにくくなるから

P3 : 手が曲っているから頭がつくんだ足
 がピンとしてた

PL : 倒立の時だけやる
 : 今度一人でやらして

P7 : 次一番、今のね、いいかやってくる?
 る?

PL : いまのどうだった?

P2 : 頭ついている

PL : 須藤君 (= P5) やらないでくれ
 : 須藤君やって

: 井出君 (= P4) どうだった

PL : なんでそっち行く、そこ

P3 : うしろでおさえろよ

PL : 今のどうだった?

P2 : (ブツブツひとりごと)

P8 : 今のは足がピンとしなかった。
 足がピンとしてなかった。

P3 (→P2) : こいつ、ぬかされてるんだ
 もの

P4 : 手がくずれた、ふざけてちゃ

P8 : 今の背中ついていない

PL : もう少しつめて P6 : 須藤君 (= P
 5) の次

PL (→P4) : 今のはどうだった?

P1 : 手が……

P8 : おしりが先におこった

P6 : もう少し馬力つけて

P7 : やっていい? [P8 倒立, 次に P6
 倒立]

PL : 今のはどうでしたか

P6 : 倒立ばかりやって足がまがらないの

PL : あんまりそこ行くな

P2 : 頭ついでるよな

P3 : 頭くっついてるよ

PL : 今のはどうでしたか

P6 : 今のはよかったけどな

PL : 今のは

(間)

ななめにゆくのはどうしてだろね →G
 手がまがってるから? →G
 そうだね, 両方の手に力はいらないか
 らかもしれない →G
 それをためしてごらん →G
 だれか一人そばにいた方がいいんじゃない
 い →G
 ……君なんだかおかしい →I
 もう一度やっごらん →I
 なんだかおかしいでしょ? →G
 どうだろう →G
 しばらくたった方がいいんじゃない君
 →I
 じゃ, そういうことを気をつけてやりな
 さい →G

PL(→T): はい片方がねえ, まがるから
 P4: 手がまがっているから

P4: 手がまがった
 GM1

高くなったらどっちがいいの?
 [高跳のグループ] →GF
 ひくい場合は →GF
 高くなるにしたがって, 遠い方がいい
 →GF
 その方がいいわけね →GF

2: 遠い方がいい
 g: 近くてもよい
 GF
 g: ハイ

P2: あゝ痛え(失敗する)
 PL: 足をもつ, もう少しつめて
 PL: 手からグニャとまがっている
 P3(→P4): 足でおさえてよ
 P1: 倒立がだめだったのだ
 P4: あぶないよ[P4倒立]
 P6: まっすぐおっこちる
 PL: 倒立も手伝うと, 一人でいいよ
 P8: やっていい? いいよ押えなくて
 PL: やっていいよ
 PL: 今のはよく……

22

では交代しましょう →A
 君たちはむこう[交代の場所を指示]
 →GM
 君たちはむこう →GM
 君たちは →G

交 替

PL: やめて
 PL: 1列に並んで[交代して走高跳の方
 へ行く]
 かけ足, 進め
 PL: とまれ
 坐れ[P8, P9二人行ってバーを
 そろえる]

24

石垣さん →I
 一辺, やっごらん →I
 まわる要領が一 →I
 はじめから頭いれたらどう? →G
 立つときは頭をすこしおこして →I
 自分で始めからたおした方がいいかおこ
 した方がいいか? →G
 中川さん, もう一度やっごらん →I
 こうなるでしょ →I
 手のぼして →I
 この方がいいね →I
 それまわして →I
 そうだね →I

GF1

GF2

g: 手の力がないの
ね

P1(→PL): 75?
 PL: 練習[バーなしで練習]
 P4・P8: 坐ってて
 PL: もう少しつめて, 2・3回やったら
 まわって
 P8(→PL): 練習のときはどんなにとぶ
 の?
 PL: もう棒たてていいんだろ
 P1: まだ
 PP: 2回したら棒たてるからね
 PL(→P8): だめいけないんだよ
 PL: 50からやる
 P6: 眼鏡をとりになくなくては

だれか手伝ってあげたらどう? →G
 ○○さんや中川さんに →G
 まだみなやってみない? →G
 だれがね、手がいちばんのびているか注
 意して →G
 しっかり注意して →G
 どうしたのこれ? →G
 いまの欠点は →G
 手がのびきっていないわけでしょ →G
 さあもう一度やっごらん →I
 まだまだ、まだもっとむこうえ →I
 中村さん、まだ少し遠いんじゃないか、
 手が →I
 いまの手が弱いんでしょ →I
 たっていない →I
 どんどんして →G



高さは?[男子高とびの方へ] →G
 高井君[=PL], 距離はどう →I
 とおすぎないか →I
 じゃそれねためしてごらん →G
 遠くからはしってきとんだときと5,
 6歩手前からとんだときと、どちらがと
 びやすいか →G
 どう →G
 かるくとべる →I
 近い方がかるくとべるらしいぞ →G
 一人一人ためしてごらん、それ →G

30

君ねこの辺からとんで [遠いところを指
 示] →I
 もう一辺とんで →I
 こんどこから →I
 どっちがとびいい →I
 今近くからきたので遠くからはしたの
 と →I
 遠い方がいい? →I
 近い方がいいか、遠い方がいいか →I
 むこうの線のあたりからね →I

GF₃
 g: 手がよわい

g: 合づちうつ

P 2 : 65? 50からでいいよ
 P L : 70だよ
 P 3 : 65位からやったら
 P L : いいとぶ?
 P 7 : いいよ, まだまだ, よしまだまだ
 よ
 P 1 : 少し高いな
 P 2 : 65だったぞお前
 P 1 : いいか
 P 8 : いいよ[砂場の中で]
 P 7 : 風だから落ちるんだよ, いいよ
 P L : これじゃないんだ
 P L : ちょっとこっちにきて
 P L : こっちだよ, まだやらないで
 [P1を砂場につれていく]
 P L : もう少しこっちだよ
 P L (→P 3) : やつていいよ
 P 3 : あぶないよ
 P L : 次, 安藤君(=P 2)
 P 4 : おっこっちゃう
 P 8 : よくおちるね
 P L · P 1 : いいよ
 P 3 : 何やってんだ
 P 7 : だめ, 75よし

P 7 : 金田君やれ
 P 7 : 一番遠くからいいよ
 P 1 : 金田君いいよ80?
 P L : 今度80だろう, まだ一周してないの
 P 8 : よし次もう一回
 P 7 : 近いところから
 P 8 : かるくとべる
 GM₁
 P 7 : いいか金田君[=P 8]
 P 8 : いいよ
 おれ, もうやったからいいよ

P 1 : 近くからとぶんだぞ
 P 4 : 75だよ[P 7とP 8砂場ならし]
 P 1 : ちがいますよ, とび方が
 P 5 : いいよ
 P 3 : くるっとはね
 P 8 : とべる?
 P L : 坐って
 P 1 : もっとつめて
 P 7 : 金田君(=P 8)がいるんだよ
 P L : ちがう, とび方がちがうな

近い方がとびいいか → I
 じゃ、あのあとの人も、今のようなやり方
 方でためしてごらん → I
 松村君、こうようなためし方をやってご
 らん → I

B : 近い方がとびい
 い
 B : (うなづく)

P 4 : 80ね
 P 7 : 金田君 (= P 8) そっちやれ
 P L : だめだよ
 P 3 : もっとつめろよ 須藤君 (= P 5)
 P 8 : お前やれ、おれここでやる

32

自分の一番とびやすい方法でとびなさい。
 → G
 こどもね走ってくる距離を考えてみます
 → G
 近いところかな、走ってしたのと、遠い
 ところから走ってきたときと、どっちが
 疲れるか、とびやすいか、それをためし
 てみましょう → G
 ……君いいね、このような方法で → I
 じゃ、やってごらん、もうすこして……

G M₃

P L : 桜井君 (= P 1) 出なくてもいい
 P 4 : あゝ
 P 7 : 下だ下だその下 [バーおちる]
 P 1 : 膝があたるな
 P 7 : 風なんだよ
 P 1 : もっとつめて、80だよ、75じゃない
 か
 P 8 : ヨーイ、ドン

[女子前転のところで] → I
 もっと、立った方がいいね → L
 ……さん、うまいよ → I
 もうすこし、ささえてごらん → I
 こっちにいるから心配しなくていいよ
 → I
 足は → G
 おりるときの足はのばしていた方がいい
 の → G

g : もう少しぐっと
 g : 少しこうねまげ
 た方がよい

そう前に足をまげた方がいいんだね → G

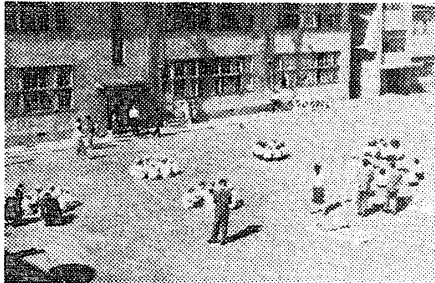
34

いまの練習やってみなさい → G
 力がないよ、まだ腕の力が [女子のやっ
 ているのをみて注意] → I

P L : ヨーシ、だれ? やっていいよ
 P L → (P) 8 : おもしろいとび方だなとん
 だの
 P 1 : なんだ
 P 4 : 75, ここじゃねえか
 P 7 : あたりまえだ今のが75
 [P 1 と P L 高さについて70, 80, 60 と話
 し合う]
 P 4 : あぶないよ、ヨーイドン
 P 6 : 80だぞ、80じゃないかバカだなお前
 は反対だよ、それ
 P 1 : やっていいよ、
 P 7 : 次 P 8 : ヨーイドン
 P L → (P 1) : でもとびかたがちかったよ
 P 8 : 80だよ
 P 1 → (P 2) : 片足がのこっているんだよ

36 (笛)

- じゃ、終わらしましょう →A
- じゃ、あつめて →G
- じゃ、前の場所で、整理体操 →A
- しっかり、まげのばしをするんですよ →G
- 号令が少しはやいんじゃない →G
- ゆっくりとする方がいいね →G
- 首の運動[グループをまわしながら整理体操の注意] →G
- あんまりはやくならないように →G
- ゆっくりまわして →G
- 話あう[体操終わった組に] →G
- かるくやんなさい →G



反



省

- 今日あの、のびでない人、おおかっただの [話し合いグループに] →G
- 多い? →G
- 谷田君、今日のびた? →I

40

- ……君ななめにとんだ時どうだった →I

各グループ毎に整理体操

PL: 並んで1列, かけ足用意進め

PL: 一二の三, 自由にまわして
P3・P7: 肩自由にまわすんだよ

PL: 今度これ

PL: ちがう[P7と意見交換]

PL: 四つあったもの[首の運動]

[号令]

P3: 首やったよ

P7: 首あとにしてよ

PL: 今度は深呼吸

PL: 反省, 今日のまずい点は

どういうところが悪いと思いますか山田君 (=P7)

P7: 手がまがってね, マットが高すぎてね

PL: いいところは, 大体足がまずいよ

PL: あとほかない?

いいことは, うまかったところは

PL: 走高跳の方では

P6 →(P2): とび方が元気がない

P7 (→P4): ちょこ, ちょこでて歩くからよくない

P1: 大体の人, 片足が残るから残らないように

PL →P7: じゃいいところは

P7: 大体の人は足をまっすぐにたてているからいいと思う

P6: あのね, 桜井君(P1)がとび方が反対になっている。

P8: 井出君(P4)がちょこちょこあちらへいつている

P7: ななめにとぶとよいと思う。

PL: ほかない? ないですか?

PL: 1列にならんで

: 用意 進め

PL: 全体とまれ, 坐って

(グループ毎の話し合い)

B: 今日のばした

B: 前はたくさんいたけど今日はよい。

(集合)

- 先生のとおろにあつまって →A

- じゃね, 背支持腕立前転から反省してみましよう →A

- ……君 →I

B: まわるとき手, 倒立するんでしよう, 腕がくっとするでしよう, けんすいや腕立ふせをやった方がよい

腕に力がないので、もっと腕立ふせやほかに腕の力をつけた方がいいという意見だね →A
 ほかに →A
 大きな声でいってよ →I

g: あたまをはじめから中へ入れると、あたまをうつ

頭をうつ →I
 誰れたちがやった? →I
 吉沢さん、そのほかにいなかった? →I
 じゃね、頭がこう、マットにボカンとついたり、うったりするのは、どういときですか →G
 何が原因なんだろう →G

42

岩下君[あてる]

→I B: 手に力がない、三角になってない

手と頭の位置が三角形にだいたいなるように →I
 それから手の力が →I
 はい →A
 ではどうでした →A
 まっすぐの方がいい? →A
 まっすぐの方がからだをささえるのに都合がいいでしょ →A

B: ない
 多数: まっすぐ

では、あの走り高とびの方で、今日の目標は、遠いところから走ってきた方がとびやすいのか、そう遠くないところから走ってきた方がよかったのか →A
 近いところがはしりよかったね →A
 ためしてみました? →A
 では、あの馬場君 →I
 近い方がとびやすかった? →I

B: 近い方がとびやすい

じゃこゝは →G
 近い方がとびやすい →G
 はい……さん[女子指名] →I

B: 近い方がよい
 g: 遠くの方がとびやすい

……さんの感じではバーが高くなるにつれてだね
 すこしづつ遠くしていった方がとびやすかったということでしたね →A

では、次の高とびの時にはね、高くなったときと、走る距離とはどんな関係があるだろうかということを考えてみたいと思います →A



(最後のはなしあい)

じゃ、今日の体育はこれでおわります		
	→A	
前の時間よりも今日は上手に出来たと思 う人、手をあげてごらんさい	→A	
		多数：はい
46		[P 2をのぞく他は皆挙手]
高とびなんかどうでした	→A	
高くとべるようになった	→A	多数：なった
じゃね、最後には記録会をやるから	→A	
	→A	
誰れが一番とべるかどうか、そういう計 画のもとに……	→A	
そのときまで一しょうけんめい練習して おく、各グループごとにね	→A	多数はい
各グループのかかりの人、用具のかか り、ではちょっときて	→係	
それから体育のかかり手伝ってしまっし て下さい	→係	
古いマットは下、新しいマットは上	→係	

(三) 授業の分析

授業の過程をどのような角度から分析するかは、いろいろの点から考えることができる。本稿では、本時の授業過程の形態、段階、教師の発言内容、教師と子どもの対応関係、子どもの発言内容の4つの項目にわけて、この授業過程の分析を試みてみることにする。

(1) 授業の全体過程

この授業では、指導計画にあるように、はじめ、なか、まとめの三つの段階に従って展開されている。時間的には、次のように大体予定通り進行している。

指 導 案		実際の授業	
はじめ	7分	はじめ	5分
な か	32分	な か	31分
まとめ	5分	まとめ	7分

導入段階では、全体で運動場を駆足で2周し、各グループ毎(6グループ、男子3、女子3)で準備体操を実施し、教師は各グループの間を巡回して、体操の動作について助言しているが、既に、このような方法になれているこの学級では、よどみなく進行している。(以上6分)

次に展開の段階、即ち、本時の主教材の学習の段階に入るのであるが、はじめに全員を集め、教材、学習内容

の提示をしている。即ち、高とびでは助走距離はどの位がもっともとびやすいかを各自の練習過程から見つけだすこと、背支持腕立前転では、どうしたらうまくまわれるかの要領の会得と、その場合にどんなことに注意すべきかを子どもに尋ね、確認するとともに、全体にたいして「できない人も互に助けあって練習をはじめて下さい」と、練習の場合の全般的注意をしているが、この間、生徒からの質問はなされておらず、観察グループ内での相互の話し合いは行われておらない。

以上のように、本時の目標を確認した後、各グループに分れ、女子は前段で高とび、男子は背支持腕立前転を練習し、その間、教師は各グループを廻って指導助言をしている。22分に交替の合図、後段は、教材を入れかえ、場所も交替し、36分、両教材の学習を終っている。

総括の段階では、各グループ毎に整理体操を行い、ついで早く終わったグループでは本時の反省をし、そして最後に全体がグループ毎に集合し、全員で本時の反省をしている。背支持腕立前転については、腕の力をます方法、頭のいれ方等についての話し合いが、高とびでは助走距離が近い方と遠い方とでどちらがとびやすいかについて討議し、この点は次の時間の課題として本時の授業を終っている。このように授業形態としてはグループ学習の形態をとり、以上のような外面的な観察では、授業は計画通りに終始したといえることができるであらう。

(2) 教師の発言内容の分析

A. 教師の発言の対象 まず、前述の三段階において、教師の発言はどのような対象にたいしてなされたかを、全体、グループ、個人別にみると第5表の通りである。

	導 入	展 開		総 括
		前 半	後 半	
全 体	31	1	0	22
グ ル ープ	19	44	24	18
個 人	3	25	36	13
計	50	70	60	53
時 間	5分	17分	14分	7分

第5表 教師の発言の対象別分類

前述のように、授業は展開の段階でグループに分れて学習がすすめられている。従って、導入、総括の段階では、全体にたいする発言が多く、展開の段階では、グループや個人にたいする発言が多くなっており、特に展開段階の後半では個人にたいする発言が多くなっているが、展開段階全体としては、グループ、個人にたいする発言はほぼ同率である。

B. 教師の発言形式 つぎに発言内容を指示的・説明的発言、発問的発言、確認的発言の三形式に分けて、対象別、教授の段階別に分類してみると、第6表の通りである。

対象	発問形式	発 言 形 式		
		指示, 説明	発 問	確 認
導 入	全 体	22	3	6
	グ ル ープ	15	1	0
	個 人	1	2	
	小 計	38	66	
展 開	全 体	前 1 後 0	0	0
	グ ル ープ	前 20 後 11	19	14
	個 人	前 11 後 17	11	3
	小 計	60	52	18
総 括	全 体	9	8	5
	グ ル ープ	11	6	1
	個 人	2	9	2
	小 計	22	23	8

第6表 教師の発言形式別分類

これによってみるならば、本授業では導入段階では、

全体にたいしての指示的・説明的発言が多く、ついでグループにたいしての同様な発言が多いが、発問的発言は僅であり、導入段階では、教師が教材を説明し、指示したという傾向がはっきりあらわれている。然しながら、展開段階になると、グループに分れて生徒は自発的に練習しはじめるのであり、教師の発言もグループや個人にたいする発問的、確認的発言が次第に多くなり、指示的・説明的発言の割合は減少してきている。また、指示・説明も具体的な方法についての指導・助言に質が変ってきていることが認められるのであり、生徒の実際活動に即して、運動の仕方そのものを考えさせて学習をすすめている傾向を認めることができるのである。

さらに、総括段階でも、指示・説明的発言よりも、発問的、あるいは確認的発言の割合が増大しており、こゝでも、導入段階に比較すれば生徒の活潑な参加を認めることができるのである。

C. 教師の目標項目に対応する発言内容

つぎに、授業計画にかゝげた目標項目に従って教師の発言を分類したものが第7表である。即ち、教師はこの授業において、運動の技能とともに、そのような運動学習を通じて、社会的態度の育成や健康安全についての理解を深めることを意図しておるのであり、これらに関連した教師の発言はどのようなになされたかを分析したのである。もちろん、体育の学習では、発言のみならず、実際の行動場面を通じて学習してゆく機会が多いのであるから、たゞこのように関連する教師の発言のみをもって判断することは早計ではあるが、一応、教師の発言はどのような目標項目に特に関連しているかを明にしてみた訳である。

この分析によって明にされたことは、教師の発言は、全体、グループ、個人を通じて、主教材である高とび、背支持腕立前転の技能に関する発言が圧倒的に多く、社会的態度、健康安全に関する発言は、ほとんどなされていないことである。

		準備・整理体操について	隊形や行動に関して	主教材の技能方法に関して	社会的態度に関する発言	健康・安全の課所に関して	その他
		導 入	全体 グループ 個人	9 5 1	4 11 0	15 0 1	2 0 0
	小計	15	15	16	2	0	2
展 開	全 グ ル ープ 個人	0 0 0	1 7 0	0 55 56	0 5 2	0 1 1	0 0 2
	小計	0	8	111	7	2	2

総括	全体	1	3	15	1	0	2
	グループ	7	4	6	1	0	0
	個人	0	0	8	0	0	5
	小計	8	7	29	2	0	7

第7表 教師の発言の目標項目別分類

このような結果から、この授業は技能中心の授業であるということとはできない。5時間を配当した全体の中の一分節であり、また、発言についてのみ分析したからこのような結果になったのであろう。また、第2時間目というのが技能を定着させるための大切な時間であるということが考えられるかもしれない。然し、このようなことは、前の時間、あるいは次の時間の授業記録の分析結果と比較することによって、また、同じような教材を他の組が実施した場合の授業記録と比較することなどによって、このような点についての診断を下すことができるであろう。本稿では、ただ、ありのままの状態を示すにとどまざるを得なかった。

(3) 子どもの発言内容の分析

ここでは、特に1グループ内の子どもの発言内容を、教師の質問に答える、計画やしかについて発言する、質問を出す、生徒の質問に答える。などの項目毎に分類すると第8表のようである。

これによると、グループ内ではリーダーの発言回数が最も多く、他の7人の発言回数の合計との比をみても1:1.5であり、リーダーの発言回数に比し、他の7人の合計の発言回数は僅か1.5倍にしか過ぎないのであり、発言がリーダーに偏しすぎてはいないかと思われるのである。また、リーダーを除く他の7人の発言回数をみると、平均1.55であるが、僅か2回しか発言しなかった

PL	1	45	20	2	1	2	0	71
P1		12	4	2	1		1	20
P2		2	1	4			2	9
P3			10	2	2		1	15
P4	2	10	1	2	1			16
P5		2	0					2
P6		4	0	5				9
P7		11	4	5	1		1	22
P8	1	5	5	4	1			16
発言内容	教師の質問に答える	計画について発言した	質問を出す	生徒の質問に答える	他人の同意	他人の反対	一人でつぶ	発言回数

表8 子ども発言内容

P5、9回しか発言しなかったP2、P6の存在が認められるのである。然しP2、P6は発言回数は少ないが他の生徒の

発した疑問、質問には、それぞれ4回、5回と答えており、積極的に学習活動に加わっていると認められるので、発言回数の上からはP5はやや積極性に欠けているとみることができよう。

さて、子どもたちの討論過程を、この男子グループが学習した背支持腕立前転、高とび、反省時の順にみてみることにする。

背支持腕立前転を行う前には倒立の練習を行っているが、ここでは、「足をピンとのぼして」「頭を上にする」という程度、そのしかたについて活潑な討論は行われていない。倒立の練習が終わって背支持腕立前転の練習にはいっているが、ここではいろいろな発言がなされている。即ち、その要領について、「手が曲っている」「足がピンとしてなかった」「頭がついているよ」などの発言があるが、一つのまとまった技能の要領、即ちどの点とどの点に注意すべきかのポイントが十分把握できないままで、次の教材の学習に移ったようである。このことは、最後のグループの反省の時にも、背支持腕立前転についてはあまり活潑な発言がなかったことでも裏付けられよう。途中で、教師が回ってきた時も、ただ、腕の曲る点について注意があっただけである。

後半の高とびでは、はじめパーなしで2回練習し、ついでパーをかけたが、それを何種の高さにするかで議論しておくだけで、はじめはとび要領についての討議にはいっておらない。もっとも、この日は風が強く、よくパーも落ちてしまうので、そのことに一寸気をとられているようである。漸く、そこへ教師が廻ってきて、「助走距離はどう、とおすぎないか」という質問があって、高とび練習の課題にはいつてきたのであるが、高さの方に気がうばわれて、距離の長さとはとびやすさの関係についての討議には発展しなかった。また、とび方についても「とび方がちがったよ」という発言はあるが、どこがどう違うのか、どうすればよいのかの討議には発展しないで、練習は終わってしまった。

反省の段階では、前述のように背支持腕立前転については、「手が曲ってね、マットが高すぎてね」と「大体足がまずいよ」という発言があったのみであり、高とびについては、このグループでは助走距離と飛びよさの関係については討議されず、僅かに「とび方が元気がない」「ちょこ、ちょこで歩くからよくない」、「片足が残るから残らないように」、「足をまっすぐたたいてるからいいと思う」という程度の発言で終わっている。

以上のような、このグループの子どもの発言内容からは、まだ技能練習とその練習をするためのしかたについ

での認識がちぐはぐな段階であって、これからどう統一されてゆくかの道すちが明にされることの必要性が、このような分析からも明にされるのである。

(4) 教師と子どもの教育過程

こゝでは、教師の発言内容の分析のところで述べたように、教師の発言は、本時の二つの主教材についての技能に関するものが多いので、そのような発言を中心に子どもとの交渉過程をみてみることにしよう。

まず背支持腕立前転では、腕のつき方、頭のおこし方、いれ方、腕に力を入れる要領、回転の要領、などを生徒に質問をし、その答えの中から正しい要領を導き出す方法をとっている。例えば

教師「なまめにゆくのはどうしてだろうね」

生徒「はい、片方がねまがるから」

教師「まがっているから」

生徒「手がまがっているから」

教師「そうだね、両方の手に力はいらないからかもしれないね」

教師「みんな、それもためしてごらん」

などの会話にみられるように、質問を出し、なお、その要領は各自の練習で、実際に分らせるよう助言している。

高とびの場合では、特に、助走距離の長さ高さとの関係を、どのグループでも主として質問している。

「長谷川さんね、ながいとき、走る距離をみじかくした時とどっちがとびいゝかためしてごらん」。

と尋ね、また、別の男子グループでも

教師「近い方がいゝか、遠い方がいいか」

生徒「近い方がいゝ」。

教師「むこうの線のあたりから、近い方がとびいゝか」

生徒：うなづく

教師「ぢや、あの、あとの人も、今のようなやり方ためしてごらん」

と、各自が実際経験で、適当な助走距離の長さを見つけ出すことができるよう指導している。然し、この時間には、別のグループでは

教師「高くなったらどっちがいゝの」

生徒「遠い方がいゝ」

教師「低い場合は」

生徒「近くてもよい」

教師「高くなるにしたがって遠い方がいい」

生徒「はい」

教師「その方がいゝわけね」

と高くなるにつれて助走距離は遠い方がよいと答えて

おり、この二つの異った回答は最後の全体の反省の時にもでているので、結局「次の高とびの時にはね、高くなるとき、走る距離とはどんな関係があるだろうかということを考えてみたいと思います」と結んで、次の時間の課題に残している。一見迂遠のようではあるが、やはり、実際の運動学習の過程を通じて、身体でその要領を会得させようとしている教師の意図をくみとることができるのである。

ただ、この時間の教師——子どもの間の発言をとった記録の中からは、教師が子どもに疑問をなげかける場合はあったが、子どもが教師に質問するという形式の発言がなかった点は、本授業の特徴であり、もう少し、子どもの素朴で、率直な質問が出されてよいのではあるまいかと考えられる。グループ内では、子ども相互の質問があったのであるから。

(四) 結語

はじめにも述べたように、本稿は、体育の教授過程研究的方法的吟味の一試論であり、授業記録もたゞ一つを例にして、若干の分析を加えたにすぎない。また、本報告では一つの授業記録の分析、診断に重点をおきすぎたきらいがあり、このような、一時間の授業の診断をしようとするのが究極のねらいではない。

然しながら、実際の学校における一時間の体育科の授業がどう展開されているかを、具体的に記録し、蒐集してゆくことは、今後の体育方法の問題を具体的な授業に即して考えてゆく上で、欠くことのできないものである。また、1時間の記録は、今後の授業をすゝめてゆく上で実際に役立つし、研究授業の際などは、具体的な記録に即して、討議をすゝめ、深めてゆくことができるであろう。さらに1時間の授業のみならず、1単元の展開過程を継続的に記録してゆくことも必要なことである。教授開始、前後の調査を行って教授記録分析の補助的資料とすることも必要である。また、多くの学校の授業記録を蒐集し、比較検討することも必要であろう。

こうすることによって、体育方法についての原則を明にするのに役立つであろうし、子どもの運動やからだを丈夫にしてゆくための知識や技能や態度の発展の過程を統一的に明にするのに役立つであろう。体育実践に即して、体育科の諸問題を考えてゆく手法がいろいろとられているが、このような教授過程の観察とその記録も一つの方法として加えられるべきであろう。

(参 考 文 献)

1. 富山市堀川小学校著 授業の研究 1959.5. 明治図書
2. 山口大附戸光小学校著 学習活動と授業過程 1959.1. 誠信書房
3. 木原健太郎著 教育過程の分析と診断 1958.12. 誠信書房
4. W, オコン著 教授過程 1959.3. 明治図書
細谷, 大橋訳
5. エリ, ヴェ, ザンコフ著 授業の分析(上).(下)
矢川 徳 光 訳 1960.5 明治図書
6. C. Knapp & A.E. Jewett Physical Education, 1957. McGraw Hill Book co.
7. 丹下保夫 体育の指導計画と指導法, (保健, 体育学大系 V) 1957.7 中山書店
8. 広岡亮蔵 学習過程序説 1960.3 明治図書